

# 神石小6年生 総合的な学習

## スマイル&ピースワールド プロジェクト

6年生は、井伏鱒二の小説「黒い雨」をもとに、「神石高原町と原爆」「戦争や原爆のおそろしさ」「平和の大切さ」をテーマに学習しています。

井伏鱒二の小説「黒い雨」は、井伏さんが神石高原町（旧三和町）に住む知人、重松静馬さんの克明な原爆体験手記「重松日記」や井伏さんと重松さんなどで集めた被爆者の人々の体験記などをもとに、神石高原町（旧三和町）を舞台に書かれた小説です。

小島にある「歴史と文学の館 志麻利」には、小説「黒い雨」がどのようにして出来たのか、小説を書くことになるまでの重松さんと井伏さんの手紙のやりとりや写真などの展示があります。

また、小説に登場する場所を巡るコース「平和ロード」もあり、散策することができます。



### 6月29日 志麻利への見学に行きました！

神石高原町小島にある「つつじが丘公園」の[文学碑]



心に残った1つ目の場所は、石碑の建ててある公園です。石碑には、小説にある「戦争はいやだ、勝敗はどちらでもいい。早くすみさえすればいい。正義のための戦争よりも 不正義の平和がいい。」という言葉があり、戦争に反対する思いが伝わってきました。

小説「黒い雨」にある [乱塔池]

わたしはこの見学で一番心が動いたことは、小説「黒い雨」の最後でしず間さんが言った「白い虹」「五彩の虹」の意味です。白い虹も五彩の虹も本当にあるけれど、めったに見ることのできないもので、しず間さんが2つ虹に願いをこめたのは、やすこの病気は99%治らないかもしれないけれど、白い虹、五彩の虹のように残り1%のきせきが起こればよいのという強い願いがこめられているからだと分かりました。わたしはこの見学を通して、映画にも出てくる乱とう池に行つて、よりいっそう平和の大切さを深く考えることができましたと思います。



閑間は小説の最後にこの乱塔池の前で「今、むこうの山に虹が出たら奇跡が起る。白い虹ではなくて、五彩の虹が出たら、矢須子の病気が治るんだ。」とつぶやきます。

歴史と文学の館[志麻利]



重松さんにいろいろなことを教えてもらいながら文学碑や池などを見学させていただきました。その後、志麻利にもどつて、資料を見ながらたくさんのお話を聞かせてもらいました。いっしょけんめい話してくださっているのを見て、重松さんはすごいなと思いました。わたしがこの見学で心に残ったことは、静馬さんと井伏さんの手紙のやりとりです。原爆のことを伝えようと必死な感じがとても伝わってきました。わたしはこの見学で学んだことがたくさんあります。それは、重松さんのおかげでもあります。だから、教えてもらったことがむだにならないようにしっかり心のノートに残して、未来の人に伝えていきたいです。